

国立大学法人群馬大学
財務レポート

Gunma University
Financial Report
2022

事業年度：令和3年4月1日～令和4年3月31日

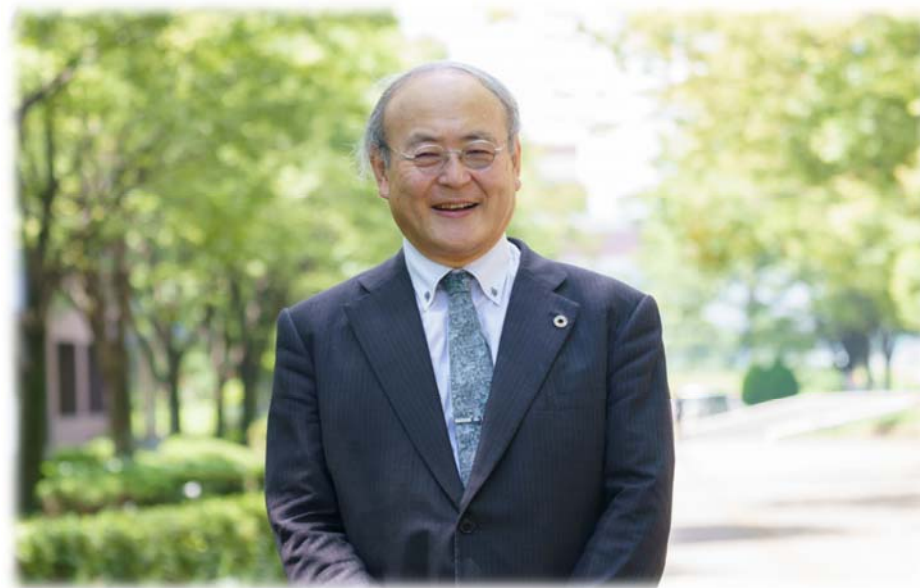




桐生キャンパス内の工学部同窓記念会館（平成10年に国の登録有形文化財として登録）

Contents

学長あいさつ	2
群馬大学のビジョン <学長が目指すもの>	3
令和3年度のトピックス <ビジョンに対する令和3年度の取組>	
<組織改組に関する取組>	5
<教育に関する取組>	7
<研究に関する取組>	9
<社会貢献等に関する取組>	11
<財務改善等に関する取組>	12
<附属病院に関する取組>	13
本学の主な収入財源の状況 <事業遂行のための財源>	15
令和3年度の決算概要 <令和3年度を数字で表現>	17
各財務指標の推移 <同規模国立大学との比較>	23
群馬大学管理運営組織 <ガバナンス体制>	27
資金の不正使用防止推進体制 <資金を適正に管理>	28
群馬大学基金の概要 <本学を応援願います！>	29
数字で見る群馬大学 - 群馬大学基礎データ - <本学の規模感>	31



学長あいさつ

この財務レポートは、群馬大学のステークホルダーである学生・保護者の皆様、卒業生の皆様、企業や自治体の皆様、そして地域の皆様など多くの方々に向けて、本学の令和3年度に実施した事業や財務状況の概要をご紹介します。本レポートは本学の資産、負債、損益などといった財務状況を明らかにする「報告書」としてだけではなく、本学が掲げるビジョンや、そのビジョンに基づいた具体的な取組を合わせてご紹介することによって本学の現状を広くご理解頂き、ステークホルダーの皆様各々のお立場や目的など本学との関係性に応じてお役立ていただければ幸甚に存じます。

1949（昭和24）年に制定された徽章は群馬大学が上毛三山に囲まれていることを表しております。上毛三山の中で荒牧キャンパスに最も近い赤城山は広い裾野を持っております。群馬大学も赤城山のように、広い知の基盤を形成し、その基盤の上にリージョナルからグローバルまで、さまざまなレベルの知の峰を作り、世の中に発信していきたいと思っております。学長ビジョンとして掲げた「知の拠点として地域の人材育成や地域社会を支える基盤となると同時に、グローバルな視点で活躍できる大学を目指す。」の実現に向け、皆様の意見を広く取り入れ、地方創生に貢献すると共に「知と人材」のグローバルな集積拠点として、一層魅力ある大学になるよう、改革を進めてまいります。



群馬大学長 石崎 泰樹

学長ビジョン

「知の拠点として地域の人材育成や地域社会を支える基盤となると同時に、グローバルな視点で活躍できる大学を目指す。」

教育

多様化する社会で活躍する人材の育成に向けた重点事項

- ① 教養教育から専門教育への有機的展開に向けた教学マネジメントの推進
- ② 情報リテラシー教育を基盤とした学部・大学院カリキュラムの整備
- ③ 産業界と連携した新たな分野融合型大学院教育プログラムの構築
- ④ 数理データ科学教育研究センターと各学部・大学院等の連携によるデータサイエンス教育研究体制の強化

研究

基礎及び先端研究の推進に向けた重点事項

- ⑤ 産業界や自治体等と連携したバックカスティング的な発想による研究の推進
- ⑥ URA（研究管理専門職）部門の強化による現状分析に基づく研究支援の拡充
- ⑦ 若手研究者を中心とした研究費獲得支援による研究活動の活性化
- ⑧ 研究設備・スペースの共用化等研究資源の有効活用、IT環境の充実による研究基盤の高度化・高機能化

社会貢献

地域の中核としての高度な知を提供するための重点事項

- ⑨ 本学の研究成果を活用したSDGsの推進、地域イノベーションの創出
- ⑩ 国際センターの機能強化による教育研究活動のグローバル化推進
- ⑪ 理工学部・情報学部による次代の産業を担う人材育成、共同教育学部・医学部による地域から世界に展開する教育・保健医療を担う人材育成
- ⑫ 地域医療の中核拠点である附属病院における安全・安心な医療、患者参加型医療、先端医療の提供

経営

大学経営基盤の強化に向けた重点事項

- ⑬ IR機能の強化とエビデンスに基づくデザインメイキングの推進
(IR: Institutional Research)
- ⑭ 教職員の適正な評価・配置を通じた教育力・研究力・社会貢献力の向上
- ⑮ ダイバーシティの推進、多様な人材の活用による大学運営の活性化
- ⑯ 積極的な情報発信による本学のブランディングの推進
- ⑰ 教育研究基盤強化のための基金等の拡充
- ⑱ IT環境等の拡充による群馬県のロケーションを活かした大学の魅力の向上
- ⑲ ステークホルダーを尊重する法人経営の実施

●令和3年4月から新学部「情報学部」が始動 学長ビジョン ①②④⑨⑪⑭

令和3年4月に設置した情報学部では、4つのプログラム（人文情報プログラム、社会共創プログラム、データサイエンスプログラム、計算機科学プログラム）において、情報を基軸とした文理横断型の教育により、Society5.0を支え、IoT、ビッグデータ、統計的解析手法等のスキルを持ち、人文科学、社会科学、自然科学の知識を有した人材を育成するとともに、全学における情報に関する教育・研究の向上に資する学部となることを目指しています。

令和3年度には学生の受入れが始まり、設置計画に基づく学年進行を着実に進めました。また、学生の理解を高めるため、教育課程の充実・科目配置計画の見直しについて検討を進めています。

1年次 学部基盤教育 どのプログラムにおいても基軸となる専門能力を養い、プログラム横断型の科目の履修を通じて文理融合による俯瞰力を育成

2年次 希望するプログラムを選択

情報学 融合型PBL・ゼミ（演習）・卒業研究により実践的に活躍できる能力を涵養



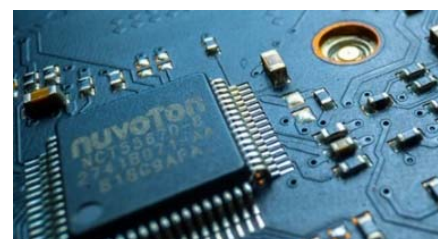
人文情報プログラム
人文科学的知見を活用して高度情報化社会における課題を探索する能力を修得します。



社会共創プログラム
社会的課題の解決および社会目標の達成のためのシステム（制度）の構築や方策を提案できる能力を養成します。



データサイエンスプログラム
ビッグデータを情報システムを利用して収集する方法を設計し、データを元に目的とする価値に適合した解決策を導く能力を養成します。



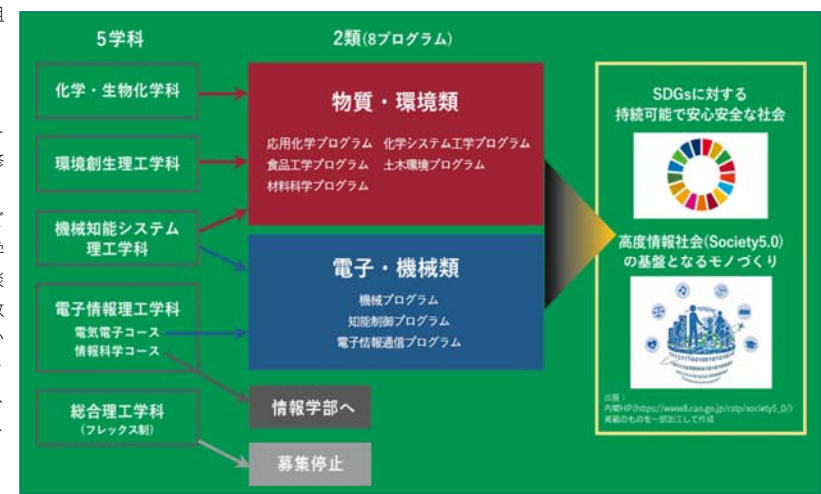
計算機科学プログラム
計算機や情報ネットワークをその数理的原理から理解し、人工知能や各種情報システムを研究開発できる能力を養成します。

●令和3年4月から新生「理工学部」が始動 学長ビジョン ①⑨⑪⑭

理工学部においては、令和3年4月に改組を行い、従来の5学科体制による細分化された教育システムから、より幅広い学修体制をとることで分野横断的な教育を強化するため、2類8教育プログラム体制に再構築するとともに、理工学の知識を基にした食品工学、化学と物理の融合した材料科学、電気と機械の融合した知能制御を学べるプログラムを新設しました。

特に、食品工学プログラムは、学長の強いリーダーシップの下で、群馬県からの要望を踏まえて県の主要産業である食料品製造の振興に寄与することを目指して、食健康科学教育研究センターと連携して教育研究を担い、本学の機能強化を実現する組織となるよう計画しています。

また、改組後は、学生10～15名程度に対して1名のメンターを設け、履修方式・進路・将来設計などについて、学生からは相談しやすく、教員はきめ細かい指導ができるようなシステムを導入しました。



●設置から2年目の宇都宮大学との共同教育学部

教育学部では、宇都宮大学と共同して、全国初の共同教育学部を令和2年4月に設置しました。設置に当たっては遠隔設備を導入して合同授業を行う環境基盤を整えており、令和3年度からはLMSを一本化して資料共有や課題提出を簡便化しました。

さらにICT教育担当の実務家教員を新たに採用し、教務委員会内にDX部会を設置して、遠隔授業等の機器類や先進的な科目群（forefront科目）におけるICT関連科目の充実を図っています。

令和2年度から、両大学の学生が合同で学修する授業を開講しており、コロナ禍に伴う特殊事情を勘案しつつ、学生に対する年2回の斉一授業アンケートにより、評価、改善を実施しました。

また、令和3年度には本学共同教育学部が主催した成績評価におけるルーブリック活用に関するFDに宇都宮大学の教員も参加して、ともに理解を深めました。



学長ビジョン ①②⑨⑪⑭



宇都宮大学との斉一授業の様子

●「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」認定

令和2年度から、数理データ科学教育研究センターが中心となり、全ての学部生が数理情報及びデータ科学に関するリテラシーを身につけられるようにするため、これまでの教養教育科目「情報」を「データ・サイエンス」に改称し、授業内容を見直して開講しています。この「データ・サイエンス」では、「群馬大学 LMS」(Learning Management System)を用いて、担当教員と授業時間以外の質疑応答や学生ごとの履修状況管理ができます。さらに教材動画視聴記録や演習問題の回答結果が記録される仕組みにより、学生ごとの授業内容の理解度の把握が可能です。

また「データ・サイエンス」は、令和3年8月に文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に認定されました。さらに、今後より上位の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（応用基礎レベル）」に申請するため、新たに「データサイエンス・AI・機械学習」、「Python入門」及び「データサイエンス応用」を令和4年度に開講しました。

このほか、令和4年3月に、本学教育プログラムデジタル修了証（オープンバッジ）の第一弾として、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」修了者に対してこのバッジを発行しました。



※なお、認定された教育プログラムの中から、先導的で独自の工夫・特色を有するものに与えられる「認定教育プログラム（リテラシーレベル）プラス」として令和4年8月26日に認定されました。

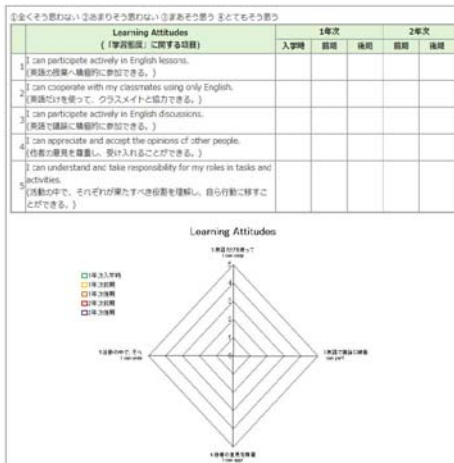
●教養英語新カリキュラムの運用開始
学長ビジョン ①

英語運用能力、英語4スキルの全学的向上のため、教養英語新カリキュラムの運用を開始しました。

旧カリキュラムでは、教養英語科目は各教員の裁量で進められていましたが、新カリキュラムでは、現在社会において求められているジェネリックスキルを涵養すべく、論理的思考力、問題解決能力の育成を重視した全学部統一カリキュラムを設定し、1年次、2年次の年次目標を定め、学内で作成した教科書、教材を用いて、授業を進めています。

また、共通評価基準（ルーブリック）による成果の可視化や Can-do リスト及び Reflection による学生の英語学習の自己省察が可能となりました。

(右図)「教養英語Can-Do Statement」による英語力自己診断のチャート



学長ビジョン ①②④

「プログラミング、AI、ディープラーニング、ビッグデータ...」よく聞くけど、一体何？
これからの時代を生きるみなさんにとって、文理や学部に関係なく必要不可欠な素養です。数理データ科学教育研究センターでは、全学部、全学年の学部生を対象として以下の3つの授業を開講します。

データサイエンス・AI・機械学習

金曜日・3-4
担当教員からのメッセージ：
文系・理系に関係なく受講できる内容ですので、是非参加してください！

Python入門

水曜日・7-8
担当教員からのメッセージ：
プログラミング言語の習得は難しいと考えがちですが、基本的な構文は、順接、選択、反復の三つだけです。自ら積極的に「手」を動かしましょう！

データサイエンス応用

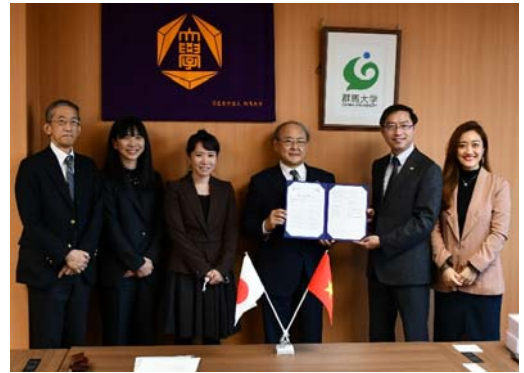
水曜日・5-6
担当教員からのメッセージ：
「データ・サイエンス」の授業をさらに発展した応用基礎の概念を平易に説明します。将来、みなさんの専門分野に役立つことではないでしょうか！

対象学部：全学部
対象学年：1-4年生
【教養教育】総合科目群、2単位

オンラインでの開講です。10月第一週目のガイダンスに気軽に参加してください！

●ポストコロナ時代を見据えたオンライン協働教育の展開
学長ビジョン ①⑩

コロナ禍の影響により、渡航を伴う学生の派遣と受入が困難でありましたが、海外の協定大学と連携して、オンラインを活用した新たな国際協働教育を始めました。令和2年度から、COIL型(Collaborative Online International Learning)の国際協働プロジェクトを実施し、これまでの語学のみを学ぶ海外短期研修から、協定校との連携により、語学を学びつつ、海外の大学生と一緒に協働プロジェクトを行うアクティブラーニングの要素を持つ国際PBL(Project-based Learning)に切り替えました。令和2〜3年度で、COIL型国際協働プロジェクトは、計5研修実施し、本学の学生60名が参加しました。



FUNiXとの協定締結のための調印式の様子

さらに、グローバル化担当の学長特別補佐を中心に、DX(デジタルトランスフォーメーション)により、協定大学間の国際連携をさらに加速させる取り組みとして、令和3年度中に、協定校の間で授業科目を共有し、学生のバーチャルエクスチェンジを可能とするオンライングローバルキャンパス(Smart Campus-to-Campus: SCC)の構築を開始しました。令和3年11月に、FUNiX(ベトナム FPT コーポレーション)と、SCC構築のための協定を締結しました。また、このSCCの枠組みを活用して、令和3年度中に、SCCのメンバー機関となるベトナム FPT 大学及び関連する企業、病院、教育機関との連携により、単位認定のCOIL型の国際インターシップを実施し、本学の学生10名が参加しました。

●大学院理工学府におけるリカレント教育の推進のためエレクトロメカニクス教育研究センターを設置
学長ビジョン ③⑨

群馬大学大学院理工学府

EMERC

**エレクトロメカニクス教育研究センター
キックオフミーティング**

2021年12月21日(火) 14:30 - 16:00
オンライン開催 参加費：無料

プログラム

- 14:30 開会
司会：理工学府長、知能機械学習部門長
- 14:35 センター発足の経緯と概要説明
登壇：学長(センター長)、電子情報部門長
- 14:50 メカニクス・システムデザイン研究部会の紹介
部長：学長(知能機械学習部門長)
- 15:05 先端センシングと医療・福祉・介護応用によるQoLの向上研究部会の紹介
部長：学長(知能機械学習部門長)
- 15:20 AI・計測制御・エネルギー研究部会の紹介
部長：学長(知能機械学習部門長)
- 15:35 機械系教育ユニットの紹介
部長：学長(知能機械学習部門長)
- 15:45 電子系教育ユニットの紹介
部長：学長(知能機械学習部門長)
- 15:55 閉会
司会：学長(知能機械学習部門長)、電子情報部門長
学長：学長(知能機械学習部門長)

日程：2021年12月21日(火) 14:30-16:00
Zoomを用いたオンライン開催
申込先：<https://forms.gle/5M6aZ3bJfufdRd>

お問い合わせ：群馬大学大学院理工学府エレクトロメカニクス教育研究センター
Electro-Mechanics Education and Research Center (EMERC)
TEL: 0273-341100 (F: 0200-41500) email: emercent@gunma-u.ac.jp

社会人学び直しプログラムとして、桐生キャンパスでは「グリーン・ヘルスケアエレクトロニクスを支えるエグゼクティブエンジニア養成プログラム」を実施しており、令和3年度は延べ131名が受講しました。また、太田キャンパスでは「社会人リカレント教育」を実施しており、令和3年度は延べ120名が受講しました。

これらのリカレント教育及び関連研究を統合できるような組織として、令和3年度にエレクトロメカニクス教育研究センターを設置しました。オーダーメイド型プログラムの開発を含め、これまでの活動を更に拡充し、リカレント教育の窓口を一本化しております。桐生・太田キャンパスでそれぞれ実施している社会人学び直しプログラム相互の情報交換が可能となり、受講生募集の幅が広がりました。

令和3年度のトピックス 《研究に関する取組》

●重粒子線医学推進機構と国内外機関等との連携

学長ビジョン ⑨⑩⑫

国内外の施設間連携を推進するため、令和3年度には、インドタタメモリアルセンターとMOU（学術交流に関する協定）を締結し、韓国ソウル国立大学病院とのMOUを更新しました。タタメモリアルセンターとは定期的なオンラインカンファレンスを実施しています。また、米国フロリダで陽子線ならびに重粒子線の導入を計画しているモフィット癌センターと合同シンポジウムをオンラインで開催し、群馬大学との今後の共同研究体制について意見交換を行いました。



重粒子線医学推進機構とタタメモリアルセンターとの調印式の様子

●未来先端研究機構において世界水準研究を実施

学長ビジョン ⑥⑦⑧⑨⑩⑮

未来先端研究機構において、世界的研究機関や研究者との共同研究等を積極的に実施するなど、本学の強みを有する統合腫瘍学、内分泌代謝・シグナル学を始めとした世界水準の研究を実施しています。この取組みを具体化するため、同機構の専任教員の30%以上を外国人研究者等とするなど、いくつかの目標を設定しています。令和3年度の目標達成状況は次表のとおりです。

目 標	実績値
未来先端研究機構の専任教員の <u>30%以上</u> を外国人研究者等とする。	42%
派遣及び受け入れ期間を1週間以上とする研究者の国際交流を年間3件以上行う	2件※
外国人研究者との共著論文を年間10本以上発表する	23本
国際的なシンポジウム、ワークショップ等を年間2件以上開催する	2件

※新型コロナウイルス感染拡大の影響下で実施できた件数。そのほかに、オンラインの活用等により、リモートで研究交流を重ねています。



第11回群馬大学未来先端研究機構国際シンポジウムの様子



第12回群馬大学未来先端研究機構国際シンポジウム 会場の様子



第12回群馬大学未来先端研究機構国際シンポジウムポスター

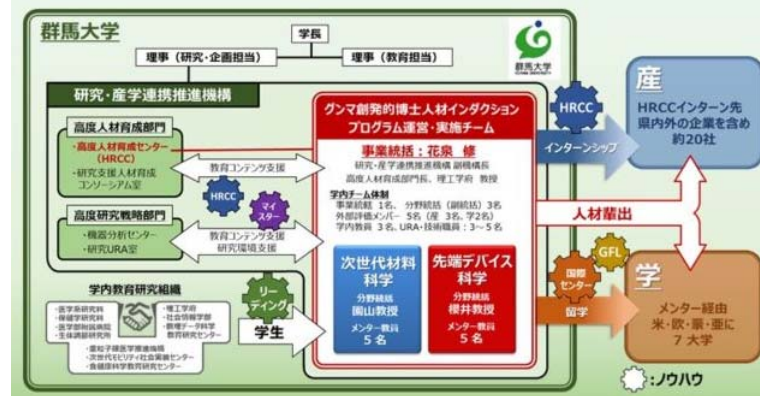
●「次世代研究者挑戦的研究プログラム」 （科学技術振興機構）に採択

学長ビジョン ③⑥⑦⑨⑪

令和3年度は、次世代研究者挑戦的研究プログラム（総額約2億1,000万円）が採択され、「Gunma創発的博士人材インダクションプログラム」を開始しました。本プログラムでは、我が国の将来を担う科学技術・イノベーション人材を育成するために、博士後期課程の優秀な大学院生（留学生を含む。）に対し、修業年限中に生活費相当額（16.5万円/月）と研究費等を支援します。

本プログラムの推進により、既存の枠組みを越えて博士後期課程学生の自由で挑戦的・融合的な研究を支援するとともに、学生が研究に専念できる環境を整備し、併せてキャリアパスの支援などを行うことで、優秀な博士後期課程学生を多様なキャリアパスで活躍できる博士人材へと導くことを目指しています。

初年度に当たる令和3年度には、博士後期課程1年生8名、2年生6名を採択しました。



「Gunma創発的博士人材インダクションプログラム」概要

●日本初の完全無人トラックによる場内搬送実証実験の成功

学長ビジョン ⑤⑨

現在運輸業界はトラックの運転手不足などの問題を抱えています。令和3年6月30日に本学と「産学連携に関する包括協定書」を締結した安中市の運送会社ボルテックスセイゲンでは、この問題に対し、群馬大学次世代モビリティ社会実装研究センターが開発した自動運転機能を適用した自動運転トラックによる場内搬送の実用化を進めています。令和4年2月19日にボルテックスセイゲンの物流センターにおいて日本初の完全無人トラックによる場内搬送実証実験を行い、成功しました。



出発式テープカットの様子



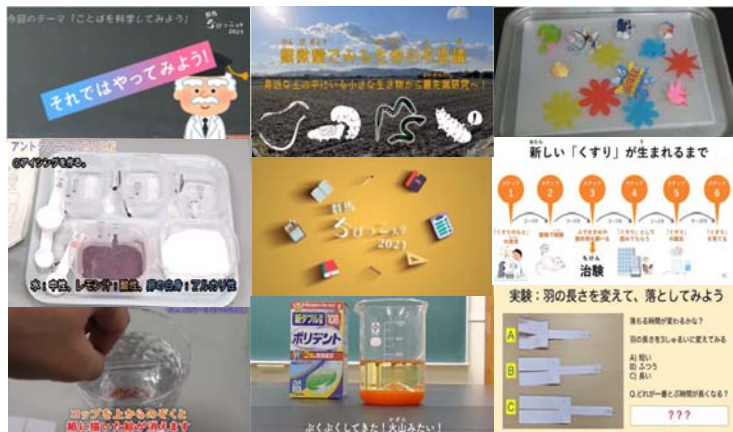
（上図）自動運転レベル4相当の場内無人搬送実証実験中の無人トラック
（左図）フォーク作業者にタブレットで動作を指定されて無人トラックが動く様子

●子ども体験教室「群馬ちびっこ大学」をオンライン開催 学長ビジョン ⑨⑩

子ども体験教室「群馬ちびっこ大学」について、令和3年度はオンデマンド教材を作成し、Youtubeで動画を公開しました。開催期間中の視聴数は10,000回以上となりました。動画は、開催期間終了後も本学Youtube公式チャンネルからいつでも視聴できるようにしています。

アンケート調査においては、「わかりやすい実験でよかった」、「来年以降も実施を希望する」、「実験のおもしろさを知り、将来大学に行って、色々とおもしろさを実験してみたい」などの意見がありました。

また、「群馬ちびっこ大学」協賛企業の太陽誘電株式会社から、(一社)学びのイノベーションプラットフォームの紹介を受け、本プラットフォームが進める初等中等教育への「群馬ちびっこ大学」のデジタルコンテンツ教材の利用を許可するとともに、STEAM教育の全国展開支援等を目的に、本プラットフォームへ特別会員として入会しました。



「群馬ちびっこ大学」Youtube 画面

●郷土かるたコレクションのデジタルアーカイブを公開 学長ビジョン ⑨⑩



上毛かるた

太田かるた

群馬県や日本郷土かるた協会の協力の下、地域貢献事業として、中央図書館所蔵の郷土かるたコレクションのデジタルアーカイブ化を実施し、令和3年3月に大学ウェブサイトにて群馬県内の郷土かるた60点を公開しました。

中央図書館が所蔵する郷土かるたコレクションは、本学共同教育学部名誉教授及び非常勤講師から寄贈された全国各地の郷土かるたをもとに、その後、個人や団体からの寄贈や独自に収集したものを加え、現在、その数約300種に及び、全国でも稀有なものといえます。

令和4年1月には、群馬県以外の郷土かるたを含む93点を追加公開し、現在公開している郷土かるたは計153点

(27都道府県)となりました。令和3年度末までのページビューは15万回以上となり、そのうち約7割が海外を含む群馬県外からのアクセスとなっています。令和3年度は郷土かるたの価値を周知するための動画を4本製作しました。令和4年度には本学公式YouTubeで公開し、県内小学校へ周知する予定です。

●本学初のクラウドファンディングを実施 学長ビジョン ⑩⑪

令和3年度から、教育、研究、社会貢献、学生の課外活動等の更なる推進のため、クラウドファンディングを活用したプロジェクトを開始しました。本学初のクラウドファンディングプロジェクト「小児重症心不全患者を救いたい！超小型人工心臓の開発」は、子どもたちがドナーを待つ期間も安心して過ごせるように、超小型磁気浮上モータを用いた、長期間使用できる耐久性の優れた小児用体内埋込型人工心臓の開発を目指しています。

本プロジェクトの開始に際しては、令和3年度第2回定例記者会見における発表などの積極的な情報発信の結果、群馬テレビや上毛新聞をはじめとした県内メディアを含む各種メディア(計88件)に取り上げられたほか、県内の産官民の各種団体における積極的な講演の実施などにより高い関心を集めたことで、当初目標の700万円を大幅に上回る3,098万円(寄附者760名)の寄附を受け入れることができました。



本学初のクラウドファンディングプロジェクト

●りょうもうアライアンスの活用により依頼分析件数増加 学長ビジョン ⑧⑨⑪



「りょうもうアライアンス」の活動をコロナ禍の影響で縮小せざるを得ない環境下で、機器分析センターの外部依頼分析は76件479万円(令和2年度)、75件485万円(令和3年度)となり、令和元年度(87件、525万円)から約8%の減少に食い止めました。その結果、第2期中期目標期間(平成22~27年度)の41件、406万円から、第3期中期目標期間(平成28~令和3年度)の350件、2,211万円と大幅に増加しました。

なお、企業からの分析依頼時、企業への結果報告時には、分析機器の特徴・原理・グラフやスペクトルの読み方、試料調製の注意点・コツ等も含めて説明し、また質問にも分かりやすく回答しており、リカレント教育の一端を担いました。

(左図) 分析装置の一例 核磁気共鳴装置(NMR)

●ESCO 事業の実施等によりエネルギー消費量及び温室効果ガスを大幅に削減 学長ビジョン ⑪

令和2年度に昭和キャンパスにおいて、民間のノウハウ、資金、経営能力及び技術的能力を活用する管理一体型ESCO(Energy Service Company)事業を導入し、省エネルギーの推進、環境負荷の低減及び光熱水費等の効果的な削減を図りました。ESCO事業等の取組効果により、全学では平成28年に策定した「エネルギー消費量削減計画(平成28~令和2年度)」において、エネルギー消費量原単位を5年間で平成27年度比5%以上削減するという目標に対し、17.9%削減と大きく上回りました。温室効果ガスについても政府目標である「2030(令和12)年度までに2013(平成25)年度比50%削減」に向け、照明器具のLED化や空調の高効率機器への更新により、令和2年度までに平成25年度比で25%削減しました。

また、令和3年3月に新たな「エネルギー消費量削減計画(令和3~7年度)」を策定し、令和元年度のエネルギー消費量原単位から1%減じた数値を基準とし、5年間で原単位を5%以上削減することを目標として掲げています。計画の初年度にあたる令和3年度は、エネルギー消費量原単位を令和元年度比7.1%削減しました。



ガス式の冷水発生機を、電気式の高効率な磁気軸受ターボ冷凍機に更新。更新前の設備に比べ、約3倍の高効率運転が可能に

●COVID-19対応と高難度医療提供を両立

附属病院は、群馬県新型コロナウイルス感染症重点医療機関及び群馬県新型コロナウイルス感染症疑い患者受入協力医療機関に指定されており、群馬県からの要請に基づいた COVID-19 対応のための病床確保や十分な感染対策による診療体制の整備を実施するとともに、特定機能病院として附属病院が本来担うべき高難度医療提供及び中核病院としての地域医療の堅持に努めました。



人工呼吸器が装着された新型コロナウイルス感染症重症患者を腹臥位療法のため体位変換する様子

また、群馬県独自に創設したクラスター発現場で濃厚接触者の特定や有症者の把握などに一体的に取り組む対策チーム「C-MAT」として感染管理認定看護師を中心に医師・看護師・事務の人員派遣に協力するなど、附属病院外での地域の COVID-19 対応に貢献しています。

●群馬県における新型コロナウイルス感染症ワクチン接種に協力

群馬県が実施した新型コロナウイルスワクチンの集団接種に協力するため、令和3年6月から10月までの間、県営ワクチン接種センターに医療従事者を派遣しました。また、令和3年6月に群馬県と群馬県臨床検査技師会の共催の臨床検査技師によるワクチン接種のための実技研修会において、附属病院の臨床検査専門医が監修や講師を担当し、6月26日から全国で初めて臨床検査技師によるワクチン接種を開始しました。令和3年11月には、県営ワクチン接種センターの運営に協力し、県民への新型コロナウイルスワクチン接種の推進に寄与したことに對して、群馬県知事から感謝状が授与されました。



(上図) 群馬県知事による感謝状授与

(右図) 群馬大学による群馬モデルの職種接種



また、令和4年1月からは、新型コロナウイルスワクチン追加接種（3回目）への協力を中心に、県営ワクチン接種センターに医療従事者を派遣しています。（予約枠担当数（～令和4年3月）※：医師2,184回、看護師6,233回、薬剤師1,671回）

※予約枠担当数

県営ワクチン接種センターでは、各日午前、午後、夜間に分けて、予約枠を設け新型コロナウイルスワクチン接種を行っています。この予約枠ごとの担当数をいいます。

●がんゲノム医療連携病院の指定

がんゲノム医療を受けられる施設は厚生労働省により指定されており、附属病院では、がんゲノム医療連携病院として令和3年4月に認定されました。令和3年6月からがんゲノム外来を開始し、遺伝子パネル検査による医療の提供及びがんゲノム医療に関する情報提供等に取り組んでいます。

※「がん遺伝子パネル検査」とは

がんの発症に関係する遺伝子のうち治療薬の効果に関連するものや、がん種の診断に関連するものなど数百の遺伝子を一度に調べる検査です。多くの遺伝子を一度に調べることで、短期間で一人ひとりの患者さんの病気に合わせた治療薬が見つかることが期待されます。

●看護師の特定行為研修を行う指定研修機関に指定

附属病院では、看護師の特定行為研修指定研修機関（看護師が手順書により特定行為を行う場合に特に必要とされる実践的な理解力、思考力及び判断力並びに高度かつ専門的な知識及び技能の向上を図るための研修）として、令和3年4月から受講生1名の受入を開始しました。

また、令和4年3月から、手術部の看護師2名が特定看護師として特定行為（術中麻酔管理領域）の実施を開始しました。今後、看護師のキャリアアップに資することももちろん、医師の働き方改革を進める中で看護師へのタスク・シフティングとしても期待できます。

※ 特定看護師とは

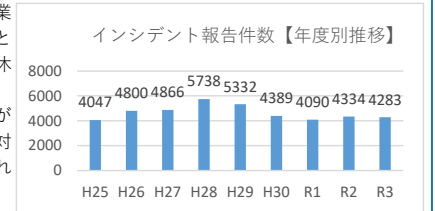
特定看護師は、特定行為研修を修了した高度な知識と判断力を備えた看護師の当院での呼称です。医師と共に予め作成した手順書に基づき、その範囲内であれば気管チューブや点滴薬剤の調整ができるなど、より難易度が高い診療の補助行為を行うことができます。

●インシデント報告文化の醸成

附属病院では、インシデント報告の分析と現場へのフィードバックを継続して行っています。全インシデント報告に占める医師の報告比率は15～20%を維持しており、インシデント報告の文化が醸成されているといえます。

インシデント報告の分析に基づいて、既存ルールの周知徹底、業務手順・ルールの変更などによる安全強化を図っており、一例として、中心静脈カテーテル抜去時の手順制訂や、抗血栓療法の実践に関する考え方の改訂を行いました。

また、医療安全文化調査によると職員の安全に対する意識が年々高まっていることがわかります。特に、「上司の医療安全に対する態度や行動」は6年連続全国1位、インシデントの報告される頻度は6年連続全国3位以内となっています。



●医療安全職員研修のオンデマンド配信

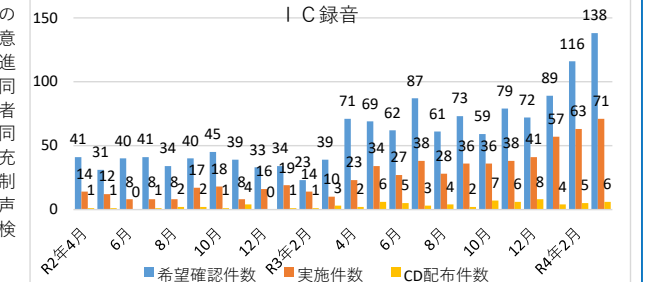
医療の質・安全学の最新の動向を反映させた医療安全職員研修について、令和2、3年度に13のコンテンツをオンデマンドで配信し、延べ15,000名が受講しました。また、新規採用・再採用・復職者に対しても同様に研修を実施し、全ての対象職員が受講しています。

研修にはエルゼビア社のSafetyPlusを導入し、当院独自のコンテンツのみならず既存の充実したコンテンツの中から、必要に応じて自身で選択して受講することができます。また、データベースを利用して医療安全以外の研修も掲載することで幅広く利用されています。

Table with 2 columns: 取組実施理由、期待する効果 and SafetyPlus コース画面抜粋

●インフォームド・コンセントを充実

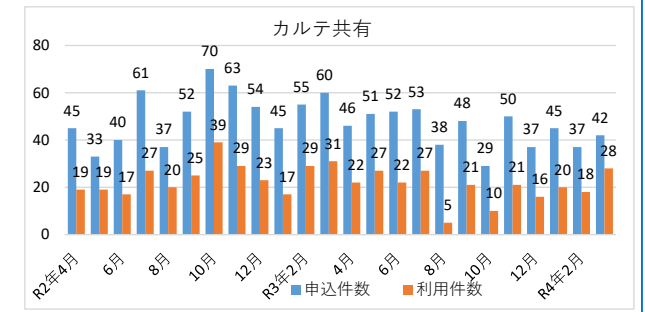
インフォームド・コンセント（IC）の充実のため、看護部と協働し、説明同意文書の点検並びに看護師の同席を推進しており、令和3年度の看護師のIC同席率は95.3%となったほか、入院患者へのIC取得にあたっての説明時の同席率、患者の反応等を調査し、ICの充実に活かしています。また、IC録音制度の効果について、ICの質評価、音声認識による入力作業の軽減に向けた検討を開始しました。



●患者参加型医療を推進するためにカルテを共有

患者参加型医療を推進するために、入院患者のカルテ閲覧制度を実施しており、令和2年4月から令和4年3月末までに516名が閲覧しています。令和3年12月からは閲覧可能時間の拡大（変更前：平日9時から16時）

まで、変更後：前日9時から21時まで）や、ベッドサイドでも閲覧できるようにし、これまでに以上に気兼ねなく利用できる体制を整備しました。継続的にカルテ閲覧制度に関する患者向けアンケートを実施しているほか、令和3年6月に職員向けの意識調査を実施しました。この結果を病院情報システムや院内医療安全情報で職員に共有し、カルテ閲覧制度が医療の質・安全、患者満足度の向上につながるよう継続的に啓発活動を行う予定です。



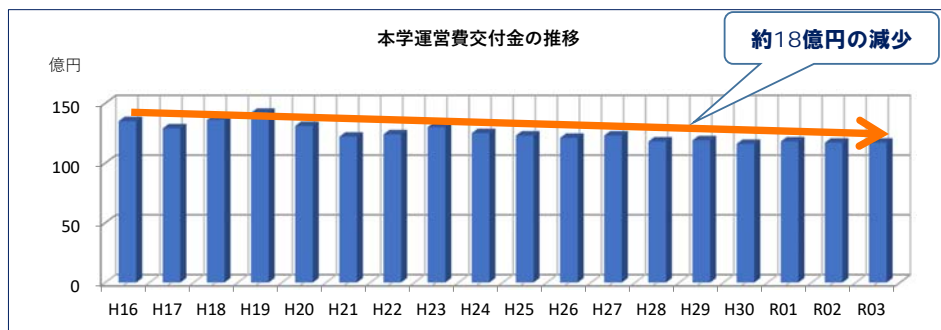
本学の主な収入財源の状況

＜事業遂行のための財源＞

●運営費交付金の状況

国立大学が我が国の人材養成・学術研究の中核として継続的・安定的に教育研究活動を実施できるよう、基盤的経費として交付されるものです。

令和3年度は約117億円本学に交付されていますが、平成16年度（約135億円）と比べると約18億円の減少となり、平成16年度の約13.3%分に相当します。このように、本学の業務運営の基盤となる運営費交付金は減少傾向にあり、この減少分を補うため引き続き安定した自己収入の確保、業務コストの削減、外部資金の更なる獲得に努めています。



●外部資金の状況

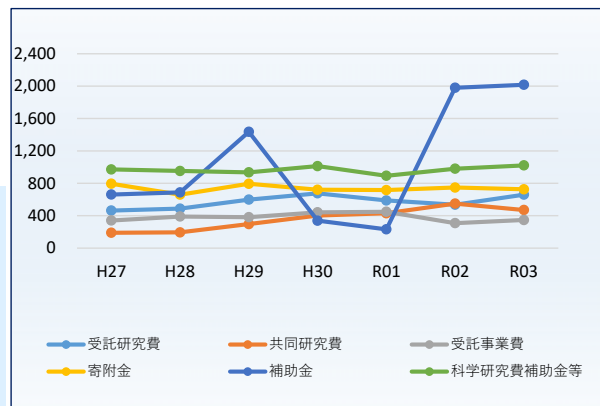
従来から、科研費獲得を目指す研究者（一般・若手・女性）に対する学内研究助成や大型研究費獲得のための重点支援プロジェクト等を学長裁量経費を活用して積極的に行うなどし、外部資金の獲得を促進させています。

なお、令和3年度においては国や県独自の補助金等により、附属病院に対するCOVID-19患者受入用ベッド確保に係る病床確保料やCOVID-19診療用の医療機器整備費等の様々な補助金が交付され（約1,283百万円）、地域の中核医療機関としてCOVID-19対応と高難度医療の提供を両立させることができました。

※外部資金受入額とは、各年度に収入として受け入れた外部資金の額です。P25の外部資金収益は、受入時に債務（負債）で計上したものが、その後の業務実施に伴い収益に振り替わったものになります。

(単位:百万円)

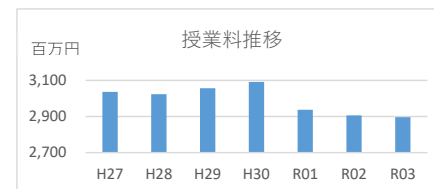
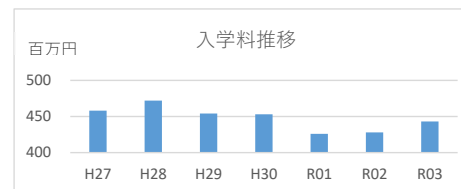
区分	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
受託研究費	464	487	598	676	588	536	660
共同研究費	189	194	296	402	430	549	470
受託事業費	341	390	382	442	449	308	347
寄附金	795	661	794	721	717	748	726
補助金	661	688	1,436	339	233	1,980	2,017
科学研究費補助金等	972	952	935	1,013	893	980	1,022



●入学科・授業料の状況

本学では、基本的には学生等に対してできるだけ教育費負担をかけないようにしていくことが重要と考えており、入学科、授業料の単価を平成17年度から増額していません。平成16年度の法人化以降、国からの運営費交付金収入の減少や人件費を含む物価の高騰、消費税の増額等による支出の増加などにより年々経営状況は厳しい状況になっておりますが、経費の節減や外部資金収入の増加などを進めることで対応しております。

なお、令和3年度の本学の入学科収入は約4.4億円、授業料収入は約29億円となっております。



★修学支援の強化の一環で入学科・授業料免除を行っています！

本学では、経済的理由で入学科や授業料の納付が困難な学生に対して納付を免除する制度を設けています。また、優秀な学生の確保及び学生の修学意欲の向上のため、授業料免除（卓越）枠も設けています。国から交付される運営費交付金が減少傾向にある厳しい財政状況の中においても修学支援の強化に努めています。

令和3年度 入学科免除・授業料免除実績

(単位:千円)

学部	区分	入学科免除	授業料免除	授業料免除 (卓越)	授業料免除計	合計
共同教育学部	学部	6,204	48,073	1,340	49,413	55,617
	専門職学位	0	0	536	536	536
	専攻科	29	137	0	137	166
共同教育学部計		6,233	48,210	1,876	50,086	56,319
情報学部	学部	5,264	29,380	1,607	30,987	36,251
	修士	1,692	3,416	536	3,952	5,644
情報学部計		6,956	32,796	2,143	34,939	41,895
医学部	学部	6,486	55,307	3,215	58,522	65,008
	修士	1,410	5,358	1,340	6,698	8,108
	博士	2,538	20,186	1,607	21,793	24,331
医学部計		10,434	80,851	6,162	87,013	97,447
理工学部	学部	12,032	89,404	3,483	92,887	104,919
	修士	18,330	61,081	1,607	62,688	81,018
	博士	2,256	13,395	1,072	14,467	16,723
	夜間主	0	2,233	0	2,233	2,233
理工学部計		32,618	166,113	6,162	172,275	204,893
合計		56,241	327,970	16,343	344,313	400,554

令和3年度の決算概要

<令和3年度を数字で表現>

●貸借対照表

決算日(3月31日)における財政状況を明らかにするために、決算日における全ての資産、負債及び純資産を記載し、報告します。(単位:百万円)

区分	R02	R03	増減
<資産の部>			
土地	22,237	22,223	△ 14
建物	22,986	21,555	△ 1,430
構築物	991	924	△ 67
工具器具備品	7,398	6,724	△ 673
図書	2,972	2,944	△ 28
現金・預金	8,085	8,857	772
未収附属病院収入	5,314	5,496	182
医薬品・診療材料	477	538	61
その他	3,334	3,955	621
合計	73,797	73,222	△ 575

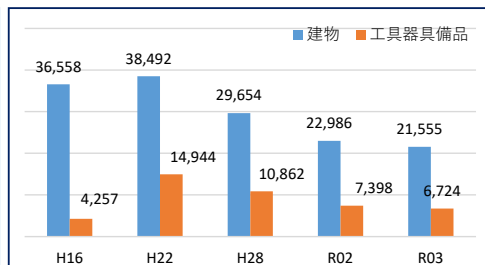
区分	R02	R03	増減
<負債の部>			
資産見返負債	8,858	8,972	113
債務負担金	2,203	1,593	△ 610
長期借入金	3,871	3,558	△ 313
寄付金債務	3,713	3,767	54
未払金	8,153	6,901	△ 1,252
その他	3,501	2,765	△ 736
負債計	30,303	27,558	△ 2,744
<純資産の部>			
政府出資金	35,617	35,617	0
資本剰余金	△ 4,250	△ 4,948	△ 697
利益剰余金	12,128	14,994	2,865
純資産計	43,494	45,663	2,168
合計	73,797	73,222	△ 575

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

○資産の特筆事項

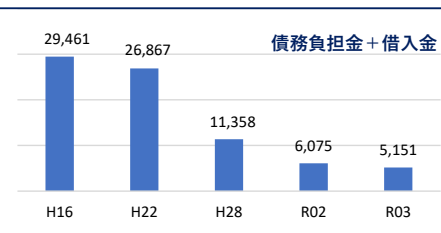
建物や設備の老朽化が進行

建物や設備の新たな取得もありましたが(下記の附属病院多機能診療棟新設など)、減価償却累計額は増加しており、建物や設備の老朽化が進みました。



◇附属病院多機能診療棟新設

本施設は、感染症流行時に診察室として使用するほか、自然災害や大規模事故の際にトリアージスペースとして使用することを想定し設置しました。通常時は多用途フリースペースとして開放し、バスや送迎車の待合室として利用できます。



○負債の特筆事項

債務負担金・借入金の減少

附属病院の過去の建物等整備に係る債務負担金・借入金について、返済が進んだことにより減少しています。

●損益計算書

一事業年度(4月1日~3月31日)の運営状況を明らかにするために、実施した事業等により発生した全ての費用と収益を記載し、報告します。(単位:百万円)

区分	R02	R03	増減
経常費用			
業務費	47,161	47,449	288
教育経費	46,022	46,274	252
研究経費	1,411	1,452	40
診療経費	2,138	2,030	△ 108
教育研究支援経費	19,325	19,788	462
受託研究費等	510	475	△ 34
人件費	1,018	1,317	299
一般管理費	21,617	21,210	△ 407
その他費用	1,002	1,063	60
経常収益	135	111	△ 24
経常収益			
運営費交付金収益	48,337	49,922	1,585
学生納付金収益	11,399	11,156	△ 243
附属病院収益	3,775	3,734	△ 41
受託研究等収益	27,978	29,409	1,431
寄附金収益	1,150	1,535	384
資産見返負債戻入	677	723	45
その他収益	1,255	1,178	△ 77
臨時損益	2,100	2,185	84
当期総損益	△ 95	392	487
当期総損益	1,081	2,865	1,784

■教育活動に要する経費

学生1人当たり年間

(教育活動に要する経費/学生数)

981千円

※教育経費には、人件費及び教育研究支援経費のうち教育経費相当分を含む

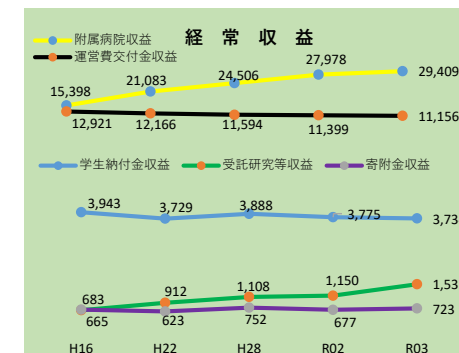
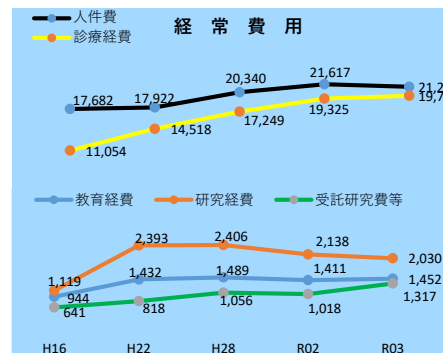
■研究活動に要する経費

教員1人当たり年間

(研究活動に要する経費/常勤教員数)

4,103千円

※研究活動に直接要する経費のみを示すため、研究経費には受託研究費等を含め、人件費及び教育研究支援経費は除く



○損益計算書の特筆事項

- ・附属病院の収支が大幅に改善
- ・当期総利益の対前年度比が大幅に増加

附属病院について、令和2年度におけるCOVID-19の影響が落ち着いてくるなどし、令和3年度は通常の診療体制に戻つつある中で病院収支は回復してきています。



●キャッシュ・フロー計算書

一事業年度の資金の調達や運営状況を明らかにするために、資金の流れを「業務活動」「投資活動」「財務活動」の区分に分けて記載し、報告します。

(単位:百万円)

I 業務活動によるキャッシュ・フロー

教育・研究及び診療など、大学の通常業務の実施に伴う資金の収支状況を表します。

II 投資活動によるキャッシュ・フロー

将来の運営基盤を確立するための投資の実施に伴う資金の収支状況を表します。

III 財務活動によるキャッシュ・フロー

資金調達や返済などに伴う資金の収支状況を表します。

区分	R02	R03	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	3,568	4,815	1,247
人件費支出	△ 20,668	△ 20,317	351
その他の業務支出	△ 23,390	△ 24,336	△ 946
運営費交付金収入	11,498	11,633	135
授業料等収入	3,087	3,122	35
附属病院収入	27,657	29,161	1,504
その他の業務収入等	5,382	5,552	170
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 57	△ 1,049	△ 992
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,191	△ 1,993	198
IV 資金に係る換算差額	—	—	0
V 資金増加額	1,319	1,772	453
VI 資金期首残高	5,766	7,085	1,319
VII 資金期末残高	7,085	8,857	1,772

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

- I. 業務活動：プラスの計上となっており、業務活動が順調に行われたことを表しています。
- II. 投資活動：定期預金の預入は減少したが、固定資産の取得（投資）等によりマイナスの計上となっています。
- III. 財務活動：リース債務や長期借入金の返済を適正に行っていることにより、マイナスの計上となっています。

業務活動	投資活動	財務活動	民間企業の場合の判定	備考
①	+	+	△ 不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある状況	国立大学法人の場合は施設費の入金と施設整備による支出のタイミング次第ではありうる
②	+	+	○ 設備投資を抑制する一方、獲得した資金により、借入金を返済して財務体質の改善を実施している状況	投資した固定資産や有価証券などを売却したタイミング次第ではありうる
③	+	-	○ 資金獲得の一層の拡大を狙い、積極的な設備投資を行っている状況	国立大学法人で通常想定されるパターン
④	+	-	◎ 獲得する資金を設備投資や借入金返済に充当している状況	
⑤	-	+	△ 資金不足を資産売却や借入で補っている危険な状況	
⑥	-	+	△ 資金不足に加え、借入の返済に迫られ、資産売却で補っている危険な状況	国立大学法人の場合、附属病院などで赤字を出した場合には、このようなケースもありうる
⑦	-	-	× 資金不足に加え、借入による設備投資を行っている危険な状況	
⑧	-	-	× 資金不足で倒産状態	

※それぞれの活動ごとに8パターンの判定が行われ、令和3年度において本学は④のパターンに該当します。

●国立大学法人等業務実施コスト計算書

一事業年度の教育・研究・診療等の業務運営に要した費用（コスト）における、国民負担額（国民の税金で賄われている金額）を表します。

(単位:百万円)

I ……国からの財源で賄われているコスト

損益計算書上に計上されている業務費用から授業料収入等の自己収入を控除したものです。

II ~VII ……損益計算書上に計上されていないコスト

国から出資された資産の減価償却費などです。

VIII ……免除若しくは軽減されているコスト

国等の資産利用に関して優遇された相当額です。

区分	R02	R03	増減
I 業務費用	13,069	11,355	△ 1,714
損益計算書上の費用 (控除) 自己収入等	47,340 △ 34,271	47,456 △ 36,101	116 △ 1,830
II 損益外減価償却相当額	1,183	1,071	△ 112
III 損益外減損損失相当額	0	△ 187	△ 187
IV 損益外利息費用相当額	1	△ 13	△ 14
V 損益外除売却差額相当額	3	0	△ 3
VI 引当外賞与増加見積額	14	20	6
VII 引当外退職給付増加見積額	△ 175	369	544
VIII 機会費用	38	136	98
IX 国立大学法人等業務実施コスト	14,134	12,753	△ 1,381

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

●決算報告書

国における会計認識基準（官庁会計）に準じ、現金主義を基礎としつつ出納整理期間の考え方を踏まえ、一部に発生主義を取り入れ、国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告します。

(単位:百万円)

区分	R03 予算額	R03 決算額	増減
収入	46,372	50,353	3,981
運営費交付金収入	11,628	11,792	164
補助金等収入	541	2,016	1,475
授業料等収入	3,457	3,429	△ 27
附属病院収入	27,479	29,162	1,683
その他収入	3,268	3,952	685
支出	46,372	48,100	1,728
教育研究経費	13,520	12,856	△ 663
診療経費	28,704	29,364	660
その他支出	4,147	5,879	1,731
収入-支出	—	2,253	2,253

※金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

主な増減内容

運営費交付金収入
補正予算等の追加交付、前年度からの繰越金の計上により164百万円増額となっています。

補助金収入
予算段階で予定していなかった国等からの交付により、1,475百万円増額となっています。

附属病院収入
新たな施設基準の取得等により1,683百万円増額となっています。

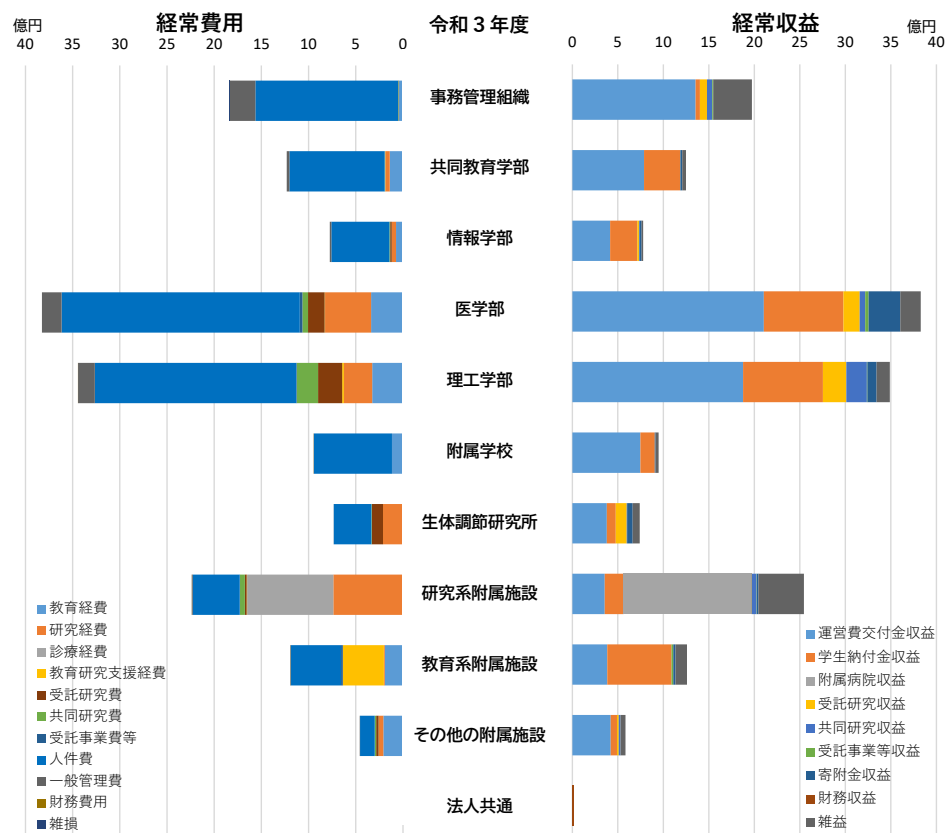
その他収入
予算段階で予定しなかった保険金収入の増加や診療報酬自主返還金の引当金取崩額の増加等により685百万円増額となっています。

診療経費
診療報酬自主返還額の増加、診療増加に伴う医療費の増加等により660百万円増額となっています。

その他支出
上述の補助金等の増加等により1,731百万円増額となっています。

●セグメント情報

本学では、平成30事業年度より詳細な財務情報を開示するため、財務諸表（附属明細書）において、従来の大学セグメントのうち、学部研究科等のセグメント情報を個別に開示しています。



※研究系附属施設とは、重粒子線医学推進機構、未来先端研究機構、研究・産学連携推進機構により構成されています。
 ※教育系附属施設とは、総合情報メディアセンター、大学教育・学生支援機構、国際センターにより構成されています。
 ※その他の附属施設とは、数理データ科学教育研究センター、食健康科学教育研究センター、ダイバーシティ推進センター、国際交流会館、学生寮、学生研修施設等により構成されています。

各セグメントの業務損益の経年表

(単位:百万円)

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度
附属病院	883	947	1,751	附属学校	0	△ 1	1
事務管理組織	△ 228	△ 25	131	生体調節研究所	2	3	6
共同教育学部	20	△ 0	17	研究系附属施設	229	205	306
社会情報学部	△ 0	△ 2	3	教育系附属施設	80	35	66
医学部	△ 28	△ 30	3	その他の附属施設	6	11	126
理工学部	△ 14	22	44	法人共通	9	11	13
学部研究科等小計	△ 23	△ 10	69	合計	959	1,176	2,473

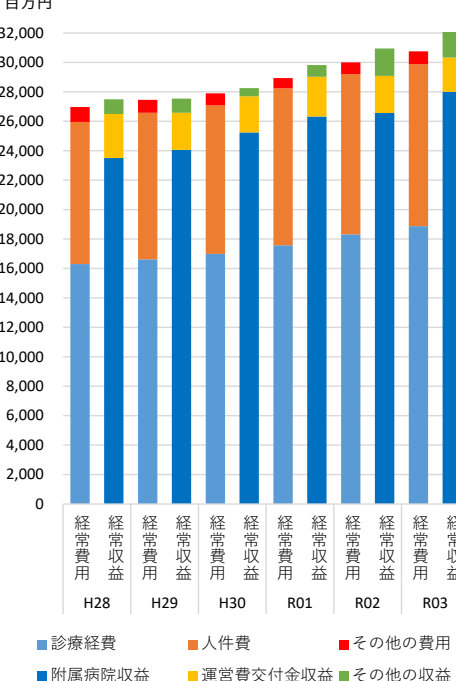
●附属病院セグメント情報

損益計算書(附属病院セグメント)

(単位:百万円)

区分	R02	R03
経常費用	30,000	30,759
業務費	29,629	30,320
教育経費	8	10
研究経費	154	150
診療経費	18,316	18,874
受託研究費等	24	36
受託事業費	241	235
人件費	10,878	11,006
一般管理費	243	332
その他費用	133	105
経常収益	30,947	32,511
運営費交付金収益	2,522	2,326
附属病院収益	26,560	28,003
受託研究収益等	24	38
受託事業収益	283	316
寄附金収益	134	120
その他収益	1,421	1,705
経常利益	947	1,751
臨時損益	△ 79	127
目的積立金取崩額	-	-
当期総利益	867	1,879

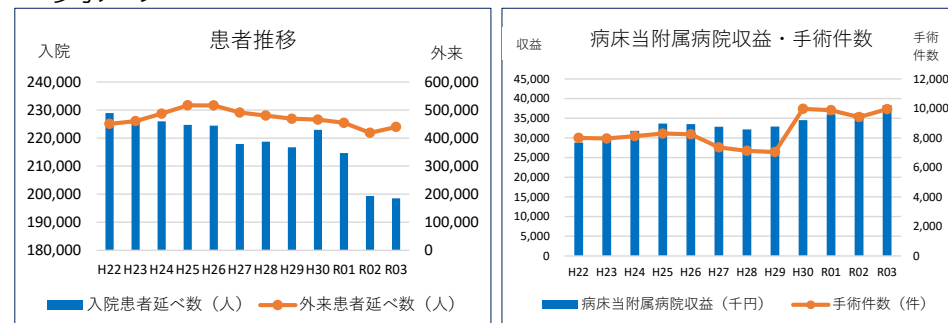
百万円



附属病院においては、診療に要する経費や病棟整備等に係る借入の返済を自己収入により賄うなど、経営努力が求められております。これまで診療単価を向上させるための取組などを実践したことで、病院収益は年々増加してきましたが、高度かつ先進的な医療の実践には、医薬品費・材料費のみならず、医療スタッフや診療設備の整備のための経費も増加し、病院の経営状況は厳しくなっています。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症患者受入のための病床確保や院内感染防止策、一般診療制限等を講じたことによる大幅な経営悪化が見込まれましたが、診療体制整備による新たな診療報酬点数の獲得や補助金などの財政支援を活用したことにより、経営を継続し附属病院が果たすべき地域医療に貢献することができました。

《参考データ》



各財務指標の推移

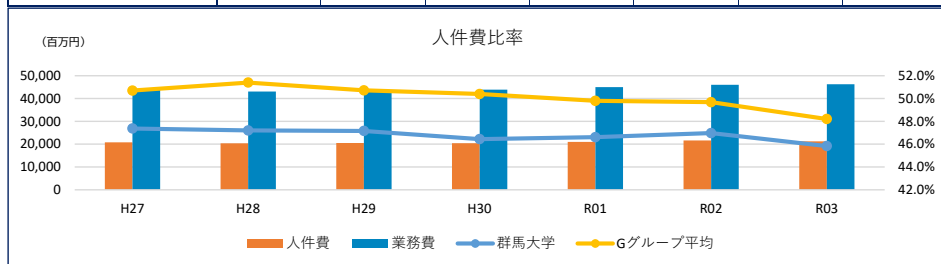
<同規模国立大学との比較>

●人件費比率 《人件費÷業務費》

業務費に占める人件費の割合を示す指標。この比率が高いほど学内の教育・研究・診療等の業務が主に教職員等の人材に依っていると解釈できます。

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
人 件 費 率	47.4%	47.2%	47.2%	46.4%	46.6%	47.0%	45.8%
人 件 費	20,797	20,340	20,519	20,386	20,972	21,618	21,210
業 務 費	43,902	43,090	43,511	43,896	44,993	46,022	46,274



昨年度に比べ、人件費比率は減少しており、依然としてGグループの平均よりは低い傾向にあります。

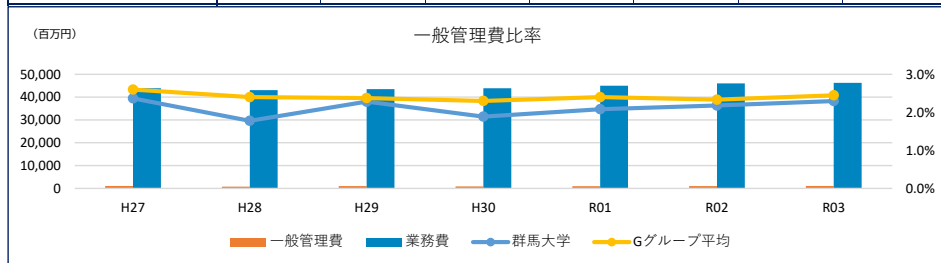
※国立大学法人は便宜上、全国86大学を各大学の規模等を踏まえAからHまでの8つのグループに分類しており、本学はGグループに属しております。Gグループは、附属病院を有する中規模の25大学のことで、弘前、秋田、山形、群馬、富山、金沢、福井、山梨、信州、岐阜、三重、鳥取、島根、山口、徳島、香川、愛媛、高知、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、琉球の各大学法人となります。但し、令和2年度以降は国立大学法人東海国立大学機構が設立された関係で岐阜大学を除いた24大学の平均値となっています。

●一般管理費比率 《一般管理費÷業務費》

業務費に占める一般管理費の割合を示す指標。この比率が低いほど望ましいと言えます。

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
一 般 管 理 費 率	2.4%	1.8%	2.3%	1.9%	2.1%	2.2%	2.3%
一 般 管 理 費	1,039	766	992	828	937	1,003	1,063
業 務 費	43,902	43,090	43,511	43,896	44,993	46,022	46,274



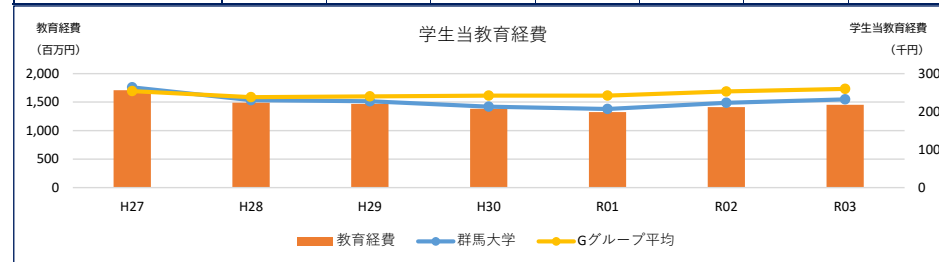
昨年度に比べ、空調設備等修理に伴う修繕費の増加により、一般管理費比率は若干増加したものの、依然としてGグループの平均よりは低い傾向にあります。

●学生当教育経費 《教育経費÷学生数》 ※人件費は含まれておりません。

学生1人当たりの教育経費を示す指標。この数値が高いほど学生1人当たりにかけられた教育目的の物件費等が大きいと解釈できます。

(教育経費単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
学 生 当 教 育 経 費	264千円	230千円	227千円	213千円	207千円	223千円	232千円
教 育 経 費	1,709	1,490	1,468	1,382	1,325	1,412	1,452
学 生 数	6,475	6,483	6,473	6,480	6,395	6,326	6,256



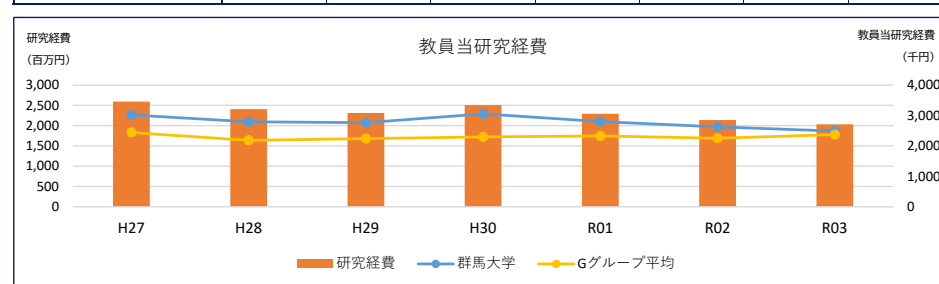
コロナ禍における奨学金の増加、オンライン授業のための環境整備及び附属学校のGIGAスクール対応（タブレット購入等）等により、昨年度から引き続き学生当教育経費が増加しました。

●教員当研究経費 《研究経費÷常勤教員数》 ※人件費は含まれておりません。

教員1人当たりの研究経費を示す指標。この数値が高いほど教員1人当たりにかけられた研究目的の物件費等が大きいと解釈できます。

(研究経費単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
教 員 当 研 究 経 費	3,019千円	2,792千円	2,763千円	3,055千円	2,800千円	2,627千円	2,488千円
研 究 経 費	2,594	2,407	2,312	2,505	2,293	2,139	2,031
常 勤 教 員 数	859	862	837	820	819	814	812



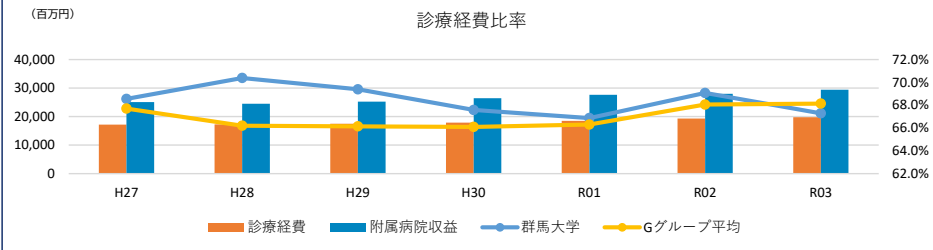
固定資産の老朽化による減価償却費の減少やコロナ禍による研究旅費の減少等により、昨年度と比べ、教員当研究費は減少しましたが、依然Gグループ平均よりはやや高い傾向にあります。

●診療経費比率 <<診療経費÷附属病院収益>>

人件費を除く診療活動に要する経費が病院収益に占める割合を示す指標。この比率が低いほど病院の収益力が高いと解釈できます。

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
診療経費比率	68.5%	70.4%	69.4%	67.6%	66.9%	69.1%	67.3%
診療経費	17,199	17,250	17,506	17,876	18,478	19,326	19,788
附属病院収益	25,091	24,506	25,228	26,450	27,633	27,978	29,410



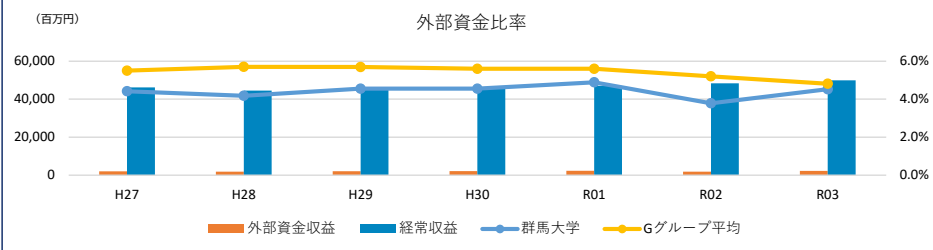
診療経費においては、診療体制の効率化や医薬品・医療材料等の契約単価抑制、ESCO 事業による光熱水費の減少等の経費節減を行っており、附属病院収益も昨年度と比較して通常の診療体制に戻りつつあり増加しているため診療経費率は減少しました。

●外部資金比率 <<(受託研究等収益+受託事業等収益+寄附金収益)÷経常収益>>

経常収益に占める外部資金の割合を示す指標。運営費交付金等、公的財政支援が厳しい状況下では、この比率が上昇することが望ましいと言えます。

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
外部資金比率	4.4%	4.2%	4.6%	4.6%	4.9%	3.8%	4.5%
受託研究等収益	687	681	861	948	1,107	795	1,140
受託事業等収益	460	426	427	451	434	356	395
寄附金収益	890	752	770	718	753	678	724
経常収益	46,168	44,518	45,241	45,781	46,989	48,338	49,923



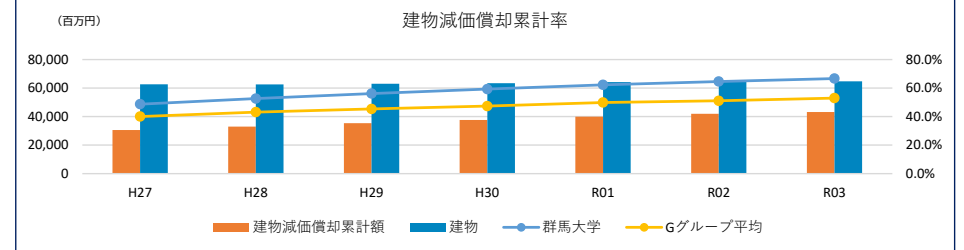
コロナ禍で抑制された外部資金の予算執行(業務実施)が回復傾向となり、外部資金収益(業務の実施に伴い収益化)は増加したことで外部資金比率も増加しましたが、依然としてGグループ平均より低い傾向にあります。

●建物減価償却累計率 <<建物減価償却累計額÷建物>>

建物の残存価値の割合を示す指標。この数値が小さいほど残存価値が高く、施設が新しいと解釈できます。

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
建物減価償却累計率	48.8%	52.6%	56.1%	59.3%	62.3%	64.6%	66.7%
建物減価償却累計額	30,535	32,933	35,389	37,585	39,966	41,917	43,203
建物	62,633	62,588	63,036	63,414	64,195	64,903	64,758



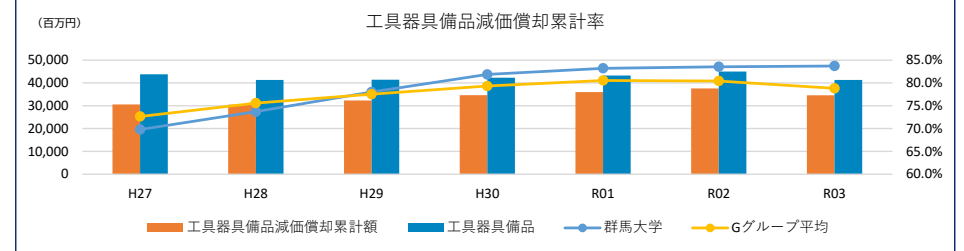
我が国の依然として厳しい財政状況から、国から支援される施設整備費が国立大学全体で減少傾向にあり、施設の老朽化が進んでいます。なお、本学は他大学に比べ病院の再開発などの時期が早いこともあり、Gグループ平均よりも老朽化が進んでいます。

●工具器具備品減価償却累計率 <<工具器具備品減価償却累計額÷工具器具備品>>

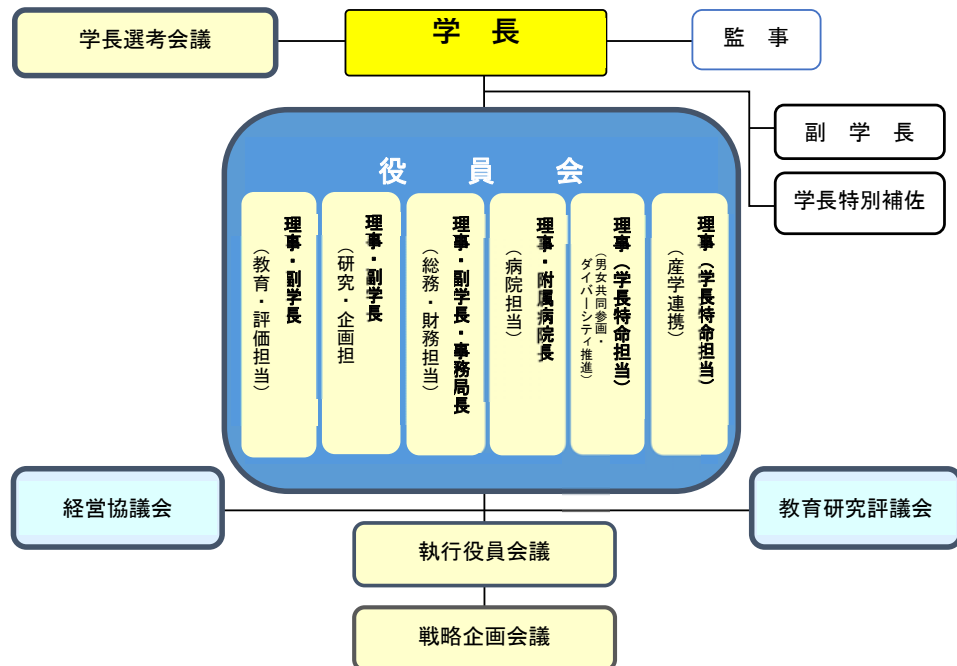
工具器具備品の残存価値の割合を示す指標。この数値が小さいほど残存価値が高く、設備が新しいと解釈できます。

(単位:百万円)

	H27	H28	H29	H30	R01	R02	R03
工具器具備品減価償却累計率	69.8%	73.7%	78.0%	81.9%	83.2%	83.6%	83.7%
工具器具備品減価償却累計額	30,580	30,460	32,306	34,631	36,001	37,590	34,600
工具器具備品	43,811	41,322	41,407	42,299	43,263	44,988	41,325



我が国の依然として厳しい財政状況から、国から支援される設備費が国立大学全体で減少傾向にあり、また各大学の経営状況も厳しく、教育、研究及び診療等の設備の老朽化が進んでいます。なお、本学はとりわけ平成27年度以降に附属病院の経営がより厳しい状況となり、医療機器の更新が大幅に遅れたことなどから、Gグループ平均よりも老朽化が進んでいます。



令和3年4月現在

○ガバナンス体制

国立大学法人法に基づき、大学の重要事項を審議する機関として、役員会、経営協議会、教育研究評議会を設置しています。

○学内資源配分について

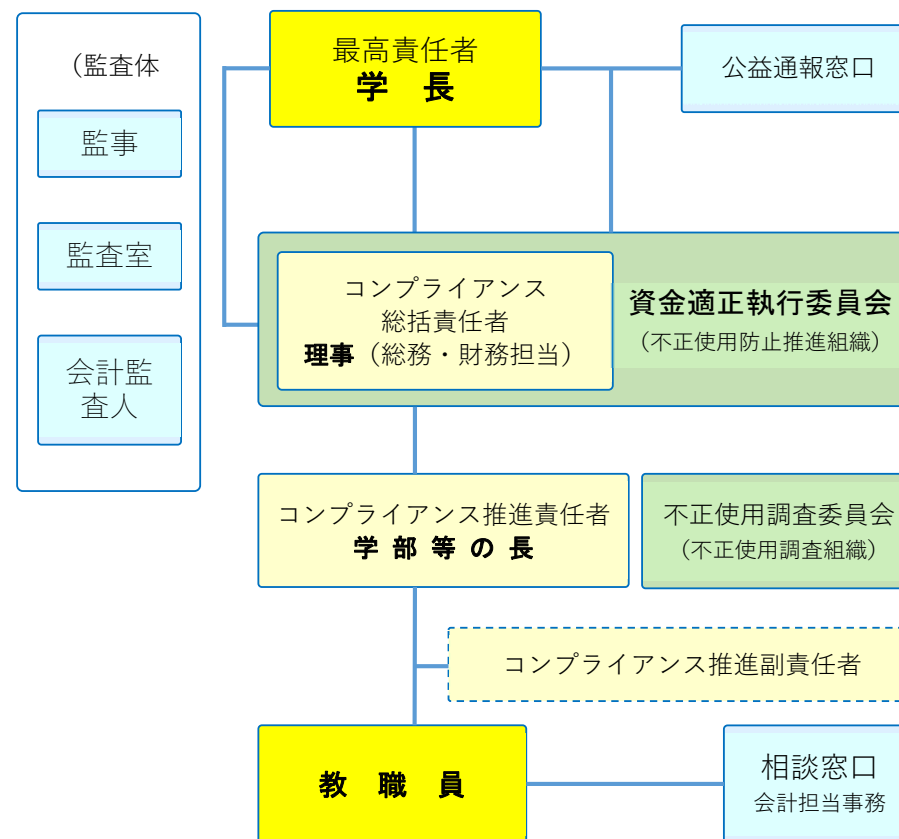
国の政策や地方公共団体、地元産業界等との意見交換などから得られる社会ニーズ等を踏まえ学長が施策の検討を指示し、学部等が取組の企画を提案します。学長は提案に対し、取組実績（成果）や事業計画等について学部等からヒヤリングを実施し、評価を踏まえた取組の選定、取組毎の予算配分の決定をしています。

○国立大学法人の学長は学長選考会議で選考され、法人の申し出に基づき、文部科学大臣が任命します。

○役員会は学長及び理事等で構成され、大学の重要事項や業務に関する学長の決定事項について審議します。

○経営に関する重要事項を審議する機関として経営協議会が設置され、学長、学外委員7名、学内委員5名で構成されています。

○教育に関する重要事項を審議する機関として教育研究評議会が設置され、学長、理事等、各部局長、教員等で構成されています。



群馬大学の構成員には、社会からの信頼と負託に誠実に応えるべき責務が求められています。独創的な科学研究を展開するとともに、基礎科学と実践的・実学的研究との融合を図りつつ、時代と社会の要請に応じた新しい知の創造を目指している群馬大学にとって、特に研究資金は大変重要なものです。この研究資金を群馬大学が適正に管理するとともに、研究者自らが有効且つ適正に使用し社会倫理に基づき科学研究活動を推し進めてこそ、群馬大学が掲げる目標の達成に繋がるばかりでなく、社会からの信頼と負託に応えることとなります。

群馬大学基金の概要

<本学を応援願います!>

●群馬大学基金の活用事業

群馬大学における学生に対する支援、教育研究の質の向上および社会貢献活動の充実等を図ることを目的とし、次に掲げる事業を実施します。

1. 学生の修学支援に資する事業



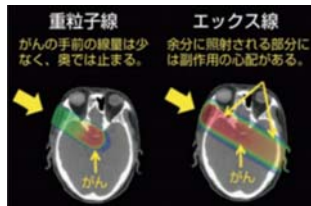
経済的理由により修学が困難な学生に対する
・奨学金の給付
・海外留学に係る費用の一部補助 等

2. 大学運営全般に係る事業



・教育研究の支援
・国際交流の推進
・社会貢献活動の充実
・教育研究環境の整備充実 等

3. 重粒子線治療の普及・発展に資する事業



・我が国で初めての大学附属病院に併設された重粒子線照射施設として、体に優しい先端的がん治療を推進するための事業

4. 学生等への研究等支援に資する事業



学生又は不安定な雇用状態にある研究者(ポストドク等)を対象とした
・公募プロジェクトにおける研究活動に要する費用補助
・研究活動の成果発表に関する必要なものの補助
・研究者の資質及び能力向上のための研究者間交流の促進 等

5. ウクライナ学生・研究者受入支援事業※



・教育・研究活動の継続支援
・渡日費用の支援(渡航費用、ビザ取得費用など)
・生活支援(宿舍費用、食費など)
・カウンセリング、日本語学習支援 等

6. 創基150周年記念事業※



・創基150周年記念式典、講演会の開催
・ホームカミングデーの開催
・各種シンポジウムの開催
・記念グッズの作成 等

※上記5及び6の事業は、令和4年10月から新たな事業として追加しました。

●令和3年度の大学基金受入状況及び活用事例

事業区分	受入件数	受入額(千円)	支出額(千円)	備考
学生の修学支援に資する事業	227	14,468	8,390	
○緊急学生支援奨学金給付			5,750	50千円×115人
○経済的困窮学生への奨学金給付			2,400	200千円×12人(大学院生)
○留学(派遣)経費補助事業			240	30千円×8人(オンライン留学)
大学運営全般に係る事業	100	4,616	1,690	受取利息5千円含む(受入額)
○学生の食に対する支援			1,320	5千円×264人
○国費外国人留学生受入支援			370	留学生の滞在諸費用補助
重粒子線治療の普及・発展に資する事業	34	3,112	0	
学生等への研究等支援に資する事業	53	13,401	0	令和3年3月から受入開始
クラウドファンディング事業※	775	30,980	5,182	令和3年10月から受入開始
○「小児重症心不全患者を救いたい! 超小型人工心臓の開発」			5,182	試作1号機の開発 クラウドファンディング業者手数料含む
合計	1,189	66,577	15,262	

※クラウドファンディング事業は、令和4年10月から大学基金とは別に独立した事業として整理しました。

●「新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業」に係る給付を受けた学生の声

★緊急学生支援奨学金給付(5万円を115人に給付)を受けた学生の声

私のアルバイト先は飲食店で、新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、アルバイトができなくなる時期がありました。アルバイトができなかった時期は仕送りに頼るしかなく、なるべく無駄遣いをしないよう計算し節約しながら過ごしていました。その時に、群馬大学緊急学生支援奨学金を申請しました。お金を頂くことはありがたいことであると同時に、お金の使い方や大切さについても学ぶことができました。生活をするうえでお金は大切です。お金がないという理由で大学生活を送れないという事態を防ぎ、救ってくださったことに感謝しかありません。

<社会情報学部 3年生>

この度は緊急学生支援奨学金を支給していただきありがとうございました。私は両親からの仕送りはなく、アルバイトの収入のみで生活しております。濃厚接触者の疑いがあり、アルバイトを控えなければならない状況になってしまい生活を送ることが困難になってしまったと思っていた際、今回の給付金のお話を伺い、支給していただきました。コロナウイルスに感染しているかもしれないという不安に加えて、生活費のことも考えていたので給付金のお話を聞いた際にはとても安心しました。この給付金があれば今後アルバイトを行う頻度が多くなり、学習面で悪い影響が出ていた可能性があります。現在学習を行うことの出来る環境を作っていただき誠に感謝しております。これからも勉学に励んでまいります。

<情報学部 1年生>

★学生の食に対する支援(5千円を264人に給付)を受けた学生の声

- ◆ご支援に感謝します。毎日の食はシビアな問題なので、とても助かります。
- ◆非常にありがたいです。食費にかけようとしていた分を他の諸経費に充てられるので助かります。
- ◆実家を離れ、一人暮らしをしており、生活費の中で食費に最も多くのお金を使うため、この支援は非常にありがたいです。大切に使用させていただきます。ありがとうございます。
- ◆コロナ禍の影響でアルバイトもできず、困窮していたのでとても有難いです。ありがとうございます。
- ◆これから国家試験の勉強で大学の施設を使うことも増えてくるため、自宅での食事が減ることによる金銭面のちょっとした不安が非常に和らぎました。ぜひ学生食堂を利用したいと思います。
- ◆経済的に厳しい状況であるため、このような支援を受けることができ、とてもありがたいです。対面授業も増えてきているため、大学で学食を利用する機会も多くなり、食費もかかるため、今回の支援でこれからも学食を活用していきたいです。
- ◆対面授業がある際には学食で食事を取っており、また勉強に集中するためには食事は欠かせないためこのような支援は嬉しいです。
- ◆非常に助かる支援で嬉しいです。このような支援をしていただける大学に在籍できてよかったと思います。
- ◆この様に支援して下さる方々に感謝し、今後も大学生生活に励んで参りたいと思います。美味しい学食を食べ、精一杯頑張り、支援に応えられる様、成長したいと思います。
- ◆コロナ渦お互い大変な状況の中にもかかわらず支援をしていただけて本当に感謝しています。
- ◆2年生になって登校できるようになり、学食を使う機会が出来て嬉しかったので、こういった支援をして頂けるのはありがたいです。
- ◆現在1人暮らしを行っているのですが、コロナウイルスの影響で実家に帰省する機会が少なくなり、栄養バランスの悪い食事が多くなっていました。栄養面と金銭面からこのような支援を行って下さり、大変感謝しております。

基金への寄付金の申込方法や寄付に係る税法上の優遇措置など詳細について専用サイトでご覧いただけます。

群馬大学基金 web サイト <https://kikin.gunma-u.ac.jp/>

群馬大学基金



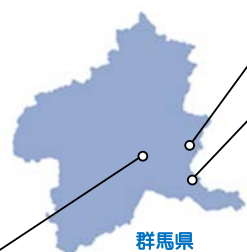
基金に関するお問合せ先:
総務部総務課広報係(基金事務局)

TEL:027-220-7018
Email:kikin@jimu.gunma-u.ac.jp

敷地面積

632,034 m²
(8,696 m²)

荒牧キャンパス（前橋市）
255,763 m²
昭和キャンパス（前橋市）
161,631 m²



桐生キャンパス（桐生市）
103,021 m²
太田キャンパス（太田市）
(8,696 m²)

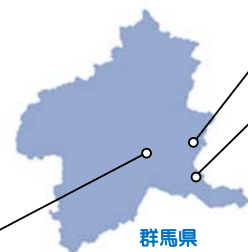
その他の地区
（前橋市、桐生市、
渋川市、長野原町）
111,619 m²

※（ ）内の数字は借用面積で外数
※令和4年5月1日現在

建物面積

329,995 m²
(5,142 m²)

荒牧キャンパス（前橋市）
47,398 m²
昭和キャンパス（前橋市）
178,263 m²
(581 m²)



桐生キャンパス（桐生市）
68,067 m²
太田キャンパス（太田市）
(4,561 m²)

その他の地区
（前橋市、桐生市、
渋川市、長野原町）
36,267 m²

※（ ）内の数字は借用面積で外数
※令和4年5月1日現在



学部・大学院等

4 学部
5 研究科・学府
1 専攻科

共同教育学部
情報学部
医学部
理工学部

教育学研究科
社会情報学研究科
医学系研究科
保健学研究科
理工学府

特別支援教育特別専攻科



附属病院

診療科数

27 診療科

病床数

731 床

外来患者数 439,672 人
入院患者数 198,520 人

※令和3年度年間述べ患者数



学部入学者出身

地区別内訳数

・北海道 15人・四国 4人
・東北 52人・中国 8人
・関東 903人・九州 9人
・中部 120人・沖縄 3人
・近畿 12人・その他 1人

※令和4年5月1日現在



学位授与者数（累計）

88,053 人

・学部 68,805 人
・修士 12,298 人
・博士 4,253 人
・その他 2,697 人

※令和4年5月1日現在



科学研究費
補助金

646 件
1,021 百万円

・直接経費 798 百万円
・間接経費 223 百万円
※令和3年度決算値



学生数

7,503 人

・学部 5,048 人
・大学院 1,228 人
・専攻科 6 人
・附属学校 1,176 人
・聴講生等 45 人
※令和4年5月1日現在



教職員数

2,405 人

・役員 6 人
・教員 904 人
・職員 1,495 人

※令和4年5月1日現在
※非常勤は含まない。



図書館蔵書数

606,094 冊

・中央図書館（荒牧）328,220 冊
・医学図書館（昭和）128,473 冊
・理工学図書館（桐生）149,401 冊

※令和4年5月1日現在



国際交流協定数

111 校

・大学間協定 33 校
・学部間協定 78 校

※令和4年5月1日現在



留学生数

15 개국 1 地域から
223 人

・アジア 10 개국 1 地域
217 人
・アフリカ 2 개국 3 人
・中近東 1 개국 1 人
・ヨーロッパ 2 개국 2 人

※令和4年5月1日現在

学生の海外派遣数

21 개국 1 地域へ
204 人

・アジア 10 개국 1 地域
105 人
・オセアニア 2 개국 35 人
・北米 1 개국 25 人
・ヨーロッパ 8 개국 39 人

※平成31年4月
～令和2年3月派遣



群を抜け
駆けろ
世界を

群馬大学 キャッチコピー
「群を抜け 駆けろ 世界を」

群馬大学で思い切り学び、経験し、地域から世界に飛び出して欲しいという、学生へのメッセージを込めました。何かを気にすることなく自ら決めた道で目指す学問を追い、どこまでも伸び、どんどん抜きんで良い。疾走する馬のような勢いと真っ直ぐさを持って、地域から世界を駆け回る人材を育てたいというイメージです。

国立大学法人群馬大学 財務レポート
Gunma University Financial Report 2022

発行：国立大学法人群馬大学財務部財務課

所在地：群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地

電話：027-220-7055

e-mail：yosan@jimu.gunma-u.ac.jp